

- 参考 -

環境省レッドデータブックカテゴリー（1997）

区分		基本的概念
絶滅		我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅		飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧	絶滅危惧 類	絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
	絶滅危惧 A類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	絶滅危惧 B類	A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
	絶滅危惧 類	絶滅の危機が増大している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧種		存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足		評価するだけの情報が不足している種
[付属資料] 絶滅のおそれのある地域個体群		地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

注) 種：動物では種及び亜種、植物では種、亜種及び変種を示す

- 参考 -

「滋賀県で大切にすべき野生生物」カテゴリー（2000）

カテゴリー	基本的概念
絶滅危惧種	県内において絶滅の危機に瀕している種 もしも現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、その存続は困難なもの
絶滅危機増大種	県内において絶滅の危機が増大している種 もしも現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、近い将来「絶滅危惧種」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの
希少種	県内において存続基盤が脆弱な種 現在のところ絶滅危惧種にも絶滅危機増大種にも該当しないが、生息・生育条件の変化によって容易にこれらのカテゴリーに移行するような要素（脆弱性）を有するもの
要注目種	県内において評価するだけの情報が不足しているため注目することが必要な種
分布上重要種	県内において分布上重要な種
その他重要種	全国および近隣府県の状況から県内において注意が必要な種
絶滅種	県内において野生で絶滅したと判断される種
保全すべき群集・群落、個体群	県内において保全することが必要な群集・群落、個体群
郷土種	上記以外で県内で大切にしていきたい生きもの

注）種：動物では種及び亜種、植物では種、亜種及び変種を示す

（参考）生態系に悪影響を及ぼす外来種・移入種

区分	基本概念
生態系に悪影響を及ぼす 外来種・移入種	本県の生態系に悪影響を及ぼしているかまたは及ぼす可能性がある外来種・移入種

- 参考 -

「改訂・近畿地方の保護上重要な植物」カテゴリー（2001）

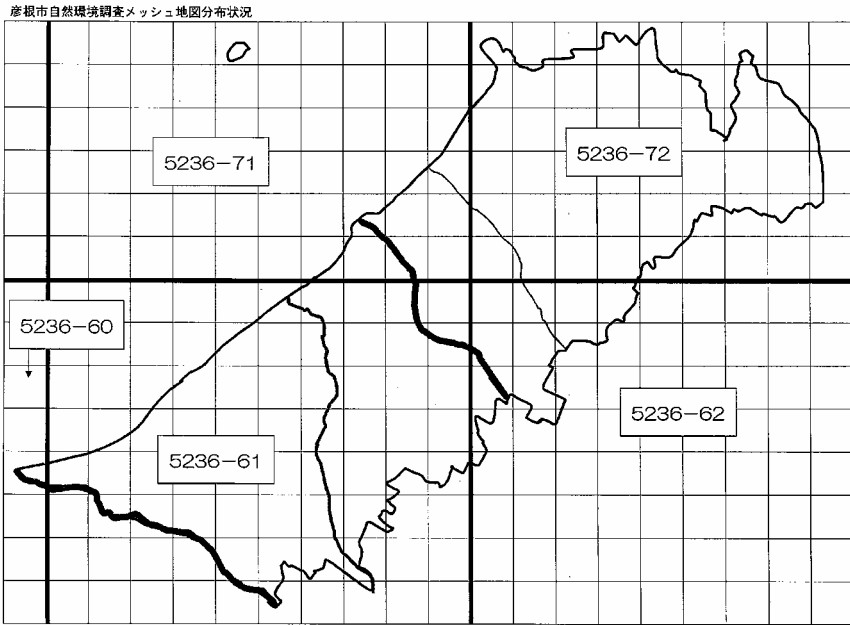
カテゴリー	基本的概念
絶滅種	近畿地方では絶滅したと考えられる種
絶滅危惧種 A	近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
絶滅危惧種 B	近い将来における絶滅の危険性が高い種
絶滅危惧種 C	絶滅の危険性が高くなりつつある種
準絶滅危惧種	生育条件の変化によっては、「絶滅危惧種」に移行する要素をもつ種

「近畿地区・鳥類レッドデータブック」カテゴリー（2002）

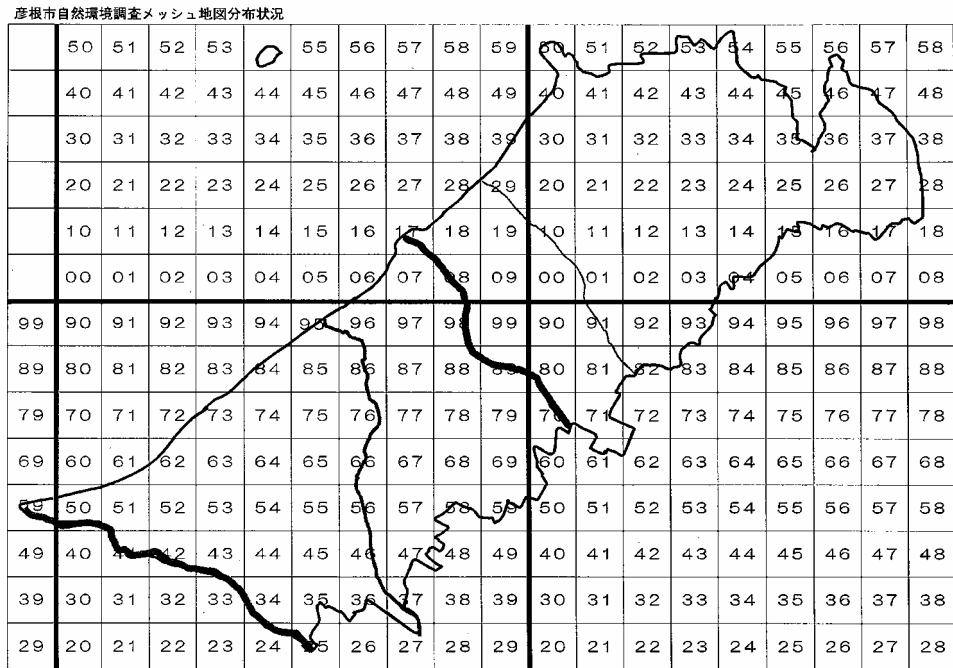
カテゴリー	基本的概念
危機的絶滅危惧	絶滅する可能性がきわめて大きい
絶滅危惧	絶滅する可能性が大きい
準絶滅危惧	絶滅する可能性がある
要注目	近畿地方での繁殖地がきわめて限られており、なんらかの攪乱により一気に絶滅する可能性があるもの、および、全国レベルや世界レベルで絶滅の危険があるとみなされるもの

- 参考 -

メッシュ地図番号



メッシュ番号



さくいん

- 植物 -

アオテンツキ	13
アオバスゲ	31
アカウキクサ	47
アカモノ	50
アキザキヤツシロラン	53
アギナシ	12
アサザ	10
アサツキ	52
アズマイチゲ	22
アズマカモメヅル	30
アゼガヤ	27
アゼテンツキ	20
アブノメ	34
イヌタヌキモ	36
イヌナズナ	20
イヌノフグリ	16
ウスゲチョウジタデ	47
ウマノスズクサ	28
ウメガサソウ	48
ウラボシノコギリシダ	41
ウリカワ	30
エビネ	44
オオイタビ	34
オオシロガヤツリ	31
オオトックリイチゴ	38
オオハナウド	50
オオマルバノホロシ	37
オガルカヤ	27
オギノツメ	22
オニナルコスゲ	13
オニバス	35
オミナエシ	29
ガガブタ	11

カキツバタ	26
カザグルマ	14
カタイノデ	28
カヤラン	53
カラコギカエデ	12
カラタチバナ	42
カリガネソウ	23
カワラアカザ	19
カワラケツメイ	39
カワラサイコ	38
キクザキイチゲ	15
キバナイカリソウ	41
ギフベニシダ	29
キンラン	44
ギンラン	44
クチナシグサ	23
クモキリソウ	45
ククルマシダ	17
ケヤマウツボ	51
コウヤワラビ	52
コオニユリ	19
コギシギシ	50
コシオガマ	16
コシンジュガヤ	48
コヒロハハナヤスリ	26
コブシ	42
コムラサキ	15
コヤブタバコ	32
サイハイラン	45
サデクサ	25
サワギキョウ	22
サンショウモ	10
シロガヤツリ	21
ジロボウエンゴサク	15
スイラン	13
セイタカシケシダ	41

セツブンソウ	49	ヒロハヤブソテツ	29
タイミンガサ	14	フクジュソウ	33
タイワンヤマイ	31	フジバカマ	14
タウコギ	33	ホシクサ	17
タカネマスクサ	21	マキエハギ	18
タコノアシ	42	マダイオウ	25
タチクラマゴケ	46	マツカサススキ	43
タチスズシロソウ	20	マツグミ	52
タヌキマメ	51	マツバスゲ	32
チダケサシ	19	マツバラシ	18
デンジソウ	10	マメスゲ	21
トウゴクサバノオ	33	ミクリ	40
トチカガミ	37	ミズトンボ	26
トンボソウ	45	ミズネコノオ	35
ナガバノウナギツカミ	25	ミゾコウジュ	24
ナガバノスミレサイシン	49	ミツデカエデ	30
ナガボノワレモコウ	51	ムカゴニンジン	24
ナツエビネ	46	ヤナギスブタ	17
ナツフジ	40	ヤナギトラノオ	23
ヌマゼリ	16	ヤマジノギク	48
ノウルシ	36	ヤマシャクヤク	39
ノハナショウブ	27	ヤマトミクリ	40
ハイハマボス	49	ヤマドリゼンマイ	36
ハマエンドウ	18	ヤマナシ	39
ハマゴウ	34	ヨウラクラン	11
ハマハナヤスリ	38	レンブクソウ	46
ハンゲショウ	37		
ヒメアオガヤツリ	32	- 昆虫 -	
ヒメコウガイゼキショウ	47	アイノミドリシジミ	106
ヒメコウホネ	35	アカシジミ	112
ヒメコヌカグサ	28	ウスイロオナガシジミ	105
ヒメサジラン	11	ウラキンシジミ	111
ヒメナミキ	24	ウラクロシジミ	113
ヒルムシロ	43	ウラゴマダラシジミ	111
ヒロハトリゲモ	12	ウラナミアカシジミ	104
ヒロハノエビモ	43	エゾミドリシジミ	107

オオウラギンヒョウモン	103
オオミドリシジミ	114
オオムラサキ	109
ギフチョウ	107
キリシマミドリシジミ	114
クジャクチョウ	115
クモガタヒョウモン	109
ゴイシジミ	110
シータテハ	115
ジャコウアゲハ	108
シルビアシジミ	103
ツマグロキチョウ	104
ヒサマツミドリシジミ	106
フジミドリシジミ	105
ミズイロオナガシジミ	112
ミドリシジミ	113
ミヤマカラスシジミ	110
ミヤマチャバネセセリ	108

- 鳥類 -

アオアシシギ	148
アオゲラ	154
アオバズク	153
アオバト	151
アカゲラ	155
アカハラ	168
アカモズ	167
アマツバメ	153
アメリカヒドリ	141
アリスイ	154
イカルチドリ	145
イソシギ	150
イソヒヨドリ	157
イヌワシ	133
ウズラシギ	147
ウソ	163

ウミアイサ	142
エゾビタキ	161
エゾムシクイ	159
エリマキシギ	148
オオジュリン	163
オオタカ	135
オオミズナギドリ	165
オオヨシキリ	158
オオルリ	160
オシドリ	140
カイツブリ	164
カッコウ	152
カワアイサ	142
カワガラス	156
カワセミ	154
カンムリカイツブリ	138
キアシシギ	149
キビタキ	160
キョウジョシギ	146
キレンジャク	167
クサシギ	149
クマタカ	133
クロツグミ	158
コアジサシ	137
コガラ	162
コサメビタキ	161
コシアカツバメ	166
コジュケイ	165
コチドリ	166
コチョウゲンボウ	137
コハクチョウ	139
コミミズク	137
コムクドリ	164
コルリ	157
ササゴイ	139
サシバ	135

サメビタキ	161	フクロウ	153
サンコウチョウ	162	ベニマシコ	163
サンショウクイ	156	ホウロクシギ	150
シマアジ	141	ホオジロガモ	141
シメ	164	ホトトギス	152
セッカ	160	マガン	134
センダイムシクイ	159	ミコアイサ	142
タシギ	151	ミサゴ	134
ダイゼン	145	ミソサザイ	156
タカブシギ	149	ミヤマホオジロ	162
タゲリ	146	ムナグロ	145
タヒバリ	155	メボソムシクイ	159
チゴハヤブサ	144	ヤブサメ	158
チュウサギ	139	ヤマシギ	151
チュウシャクシギ	150	ヤマドリ	165
チュウヒ	136	ヨシガモ	140
チョウゲンボウ	144	ヨシゴイ	133
ツツドリ	152	ヨタカ	138
ツミ	143	ルリビタキ	157
ツルシギ	148		
トウネン	146	- 動物 -	
トモエガモ	140	アカネズミ	212
トラツグミ	138	アズマモグラ	188
ノスリ	143	アナグマ	207
ハイイロチュウヒ	136	アブラコウモリ	211
ハイタカ	143	イタチ	198
ハクセキレイ	167	イノシシ	219
ハチクマ	135	オオカミ	183
ハマシギ	147	カモシカ	192
ハヤブサ	136	カヤネズミ	190
ハリオアマツバメ	166	カワウソ	183
バン	144	キクガシラコウモリ	184
ヒシクイ	134	キツネ	217
ヒバリシギ	147	クマネズミ	206
ヒレンジャク	168	コウベモブラ	209
ピンズイ	155	コキクガシラコウモリ	185

ジネズミ	202	スゴモロコ	255
スミスネズミ	189	スジシマドジョウ類	246
タヌキ	213	スナヤツメ	241
チョウセンイタチ	200	ゼゼラ	260
ツキノワグマ	208	タカハヤ	261
テン	197	デメモロコ	255
ドブネズミ	205	ニゴロブナ	251
ニホンザル	193	ニッポンバラタナゴ	241
ニホンジカ	221	ハス	260
ニホンリス	186	ハリヨ	249
ノウサギ	195	ビワコオオナマズ	263
ハクビシン	201	ビワヒガイ	256
ハタネズミ	204	ビワマス	250
ハツカネズミ	206	ビワヨシノボリ(仮称)	262
ヒミズ	203	ホトケドジョウ	247
ヒメネズミ	191	ホンモロコ	242
ムササビ	187	ムギツク	251
		メダカ	257
- 魚類 -		モツゴ	254
アカザ	249	ヤリタナゴ	244
アブラハヤ	262	ワタカ	243
アブラヒガイ	264		
アブラボテ	252		
アマゴ	264		
アユ	259		
アユモドキ	247		
イサザ	258		
イチモンジタナゴ	245		
イワトコナマズ	263		
ウツセミカジカ	253		
カネヒラ	258		
カワバタモロコ	243		
ギギ	248		
ゲンゴロウブナ	261		
コイ	253		
シロヒレタナゴ	245		

解説のあるもののみ記載しています。

あとがき

「彦根市環境基本計画および地域行動計画」策定のための基礎調査として始まった本調査も本書の作成を迎えるまでに6年が経ちました。この間にも環境は刻々と変化しています。

環境が変化している要因としては、開発行為などによる直接的な環境破壊、日常生活を含めた人間の活動による地球温暖化など様々なことがあげられます。その要因の一つでもある地球温暖化の影響は生物の生息域にも変化を与えようとしています。気温の上昇は生息環境を変化させ、このことにより、姿が見られなくなった種、反対に姿が見られるようになった種が現われてきました。また、集中豪雨や台風の度重なる上陸等の異常気象は、生物の生息環境を一瞬にして大きく変えたり、消滅させたりします。

私たちはこうした環境の変化を抑制し、より多くの野生生物の生息環境を保全していかなければなりません。本書では、現在確認している野生生物について記載するとともに、彦根市内で絶滅のおそれのある生物についてランク付けを行いました。これらの種のみならず、多くの種の保存や自然環境への配慮がされることを望みます。

本調査を行うにあたっては、多くの市民の方に協力をいただき、現地での調査に携わっていただきました。この調査に最初からかかわっていただいている方の中には、多くの知識を習得され、自然観察会などにおいて講師または講師の助手として活躍される方も現れてきました。こうした人材が現れたことは、本調査の目的の一つである人材育成という点での成果だと思われます。

本書をより多くの方が活用し、環境の保全に役立てていただけることを期待します。

平成17年3月

生活環境課

調査協力者

指導員

村長 昭義（植物） 布藤 美之（昆虫） 村長 義雄・金尾 滋史（淡水魚類）
平松 光三（鳥類） 阿部 勇治（哺乳類）

調査員

安部 耕作	阿部 司	有田 泰子	石谷 彬	礪野 章	出雲 孝子
伊藤 明美	伊藤 久子	上野 やす子	植村 美由起	梅景 みよ子	大橋 俊一
大道 暢之	垣内 清美	加固 啓英	片岡 優子	川上 由香里	河森 秋人
北村 治滋	久米 廣幸	倉長 裕幸	小林 克次	佐藤 進	柴田 尚
島田 正	下川 美代子	千菊 修身	田中 縁	谷澤 正子	筒井 安正
寺崎 文美	寺村 一晃	中尾 博行	中村 圭輔	藤田 建太郎	藤原 真吾
古田 良造	牧野 祥子	牧村 富美子	三上 恭治	三島 康嗣	望月 伸弘
森永 洋平	藪野 光子	山口 陽弘	山中 泉	吉田 千代	吉田 豊
渡邊 輝世	渡邊 康之				

（敬称略）

彦根市で大切にすべき野生生物
レッドデータブックひこね

平成17年(2005年)3月
発行 彦根市

〒522-8501 彦根市元町4番2号
彦根市役所生活環境課

TEL 0749-30-6116 FAX 0749-27-0395

E-mail kankyohozen@ma.city.hikone.shiga.jp

この冊子は、古紙100%再生紙を使用しています。